

PA4395US



日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

2091-0243P  
09/842,766  
4/27/01  
Fumito Takemoto  
BSKB  
703-205-6000

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2000年 4月28日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2000-130734

出 願 人  
Applicant (s):

富士写真フイルム株式会社

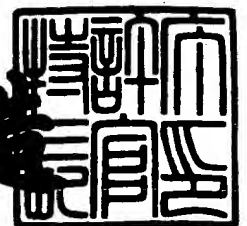
RECEIVED  
AUG 15 2001  
Technology Center 2600

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 3月 9日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3015595

【書類名】 特許願

【整理番号】 P25212J

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 H04N 9/64

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡開成町宮台 7 9 8 番地 富士写真フイルム株式会社内

【氏名】 竹本 文人

【特許出願人】

【識別番号】 000005201

【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100073184

【弁理士】

【氏名又は名称】 柳田 征史

【選任した代理人】

【識別番号】 100090468

【弁理士】

【氏名又は名称】 佐久間 剛

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008969

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9814441

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 色補正方法および装置並びに記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 デジタルカメラにより取得した画像データに対して色を補正する処理を施して処理済み画像データを得る色補正方法において、

あらかじめ定められた複数の特定色についての明度、彩度、色相の変更度を設定し、

前記各特定色の中心色と前記画像データにより表される画像を構成する色との均等色差空間における距離に基づいて、前記各特定色についての明度、彩度、色相の変更度を重み付け加算して明度、彩度、色相についての補正值を得、

該明度、彩度、色相の補正值に基づいて前記画像データにより表される画像の明度、彩度、色相を補正して前記処理済み画像データを得ることを特徴とする色補正方法。

【請求項 2】 前記特定色に肌色を含めることを特徴とする請求項 1 記載の色補正方法。

【請求項 3】 明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類された肌色を前記特定色に含めることを特徴とする請求項 2 記載の色補正方法。

【請求項 4】 前記画像データにより表される画像を表示手段に表示し、  
該表示手段に表示された画像上に所望とする位置の指定を受け付け、  
該画像上に指定された所望とする位置の色を前記特定色に含めることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項記載の色補正方法。

【請求項 5】 デジタルカメラにより取得した画像データに対して色を補正する処理を施して処理済み画像データを得る色補正装置において、

あらかじめ定められた複数の特定色についての明度、彩度、色相の変更度を設定する変更度設定手段と、

前記各特定色の中心色と前記画像データにより表される画像を構成する色との均等色差空間における距離に基づいて、前記各特定色についての明度、彩度、色相の変更度を重み付け加算して明度、彩度、色相についての補正值を得る重み付け加算手段と、

該明度、彩度、色相の補正值に基づいて前記画像データにより表される画像の明度、彩度、色相を補正して前記処理済み画像データを得る補正手段とを備えたことを特徴とする色補正装置。

【請求項 6】 前記特定色に肌色を含めることを特徴とする請求項 5 記載の色補正装置。

【請求項 7】 明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類された肌色を前記特定色に含めることを特徴とする請求項 6 記載の色補正装置。

【請求項 8】 前記画像データにより表される画像を表示する表示手段と

該表示手段に表示された画像上に所望とする位置を指定する指定手段とを備え

該画像上に指定された所望とする位置の色を前記特定色に含めることを特徴とする請求項 5 から 7 のいずれか 1 項記載の色補正装置。

【請求項 9】 デジタルカメラにより取得した画像データに対して色を補正する処理を施して処理済み画像データを得る色補正方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体において

前記プログラムは、あらかじめ定められた複数の特定色についての明度、彩度、色相の変更度を設定する手順と、

前記各特定色の中心色と前記画像データにより表される画像を構成する色との均等色差空間における距離に基づいて、前記各特定色についての明度、彩度、色相の変更度を重み付け加算して明度、彩度、色相についての補正值を得る手順と

該明度、彩度、色相の補正值に基づいて前記画像データにより表される画像の明度、彩度、色相を補正して前記処理済み画像データを得る手順とを有することを特徴とするコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【請求項 10】 前記特定色に肌色を含めることを特徴とする請求項 9 記載のコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【請求項 11】 明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類

された肌色を前記特定色に含めることを特徴とする請求項 1 0 記載のコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【請求項 1 2】 前記画像データにより表される画像を表示手段に表示する手順と、

該表示手段に表示された画像上に所望とする位置の指定を受け付ける手順とを有し、

該画像上に指定された所望とする位置の色を前記特定色に含めることを特徴とする請求項 9 から 1 1 のいずれか 1 項記載のコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明はデジタルカメラにより取得したデジタル画像データに対して色を補正する処理を施す色補正方法および装置並びに色補正方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

デジタルスチルカメラ（以下デジタルカメラとする）においては、撮影により取得した画像をデジタル画像データとしてデジタルカメラ内部に設けられた内部メモリや IC カードなどの記録媒体に記録し、記録されたデジタル画像データに基づいて、プリンタやモニタに撮影により取得した画像を表示することができる。このように、デジタルカメラにより取得した画像をプリントする場合においては、ネガフィルムからプリントされた写真と同様の高品位な画質を有するものとするのが期待されている。

【0 0 0 3】

一方、印刷の分野においては、スキャナによりカラー原稿を読み取ることにより入力画像データを得、この入力画像データに対して所望の画像処理を施して出力画像データを生成してプリンタにハードコピーとして画像を出力するようにし

たシステムが用いられている（例えば特開平 1 1 - 2 3 4 5 2 3 号）。このシステムは、入力画像データを RGB 色信号から CMYK 網%信号に変換するものである。まず、予め入力画像データに対してトーンカーブ（階調変換テーブル）およびカラーコレクション部の色補正量等を設定し、設定されたトーンカーブおよびカラーコレクション部の色補正量等に基づいて、入力画像データを出力画像データに変換するための 3 次元ルックアップテーブル（以下 3DLUT とする）を作成する。次いで、入力画像データである RGB 色信号をこの 3DLUT を補間することにより出力画像データである CMYK 網%信号に変換する。印刷は、この網%信号により各色のインクの量を制御することにより行われる。

#### 【0004】

このようなシステムにおいて、色補正を行うための色補正量は、画像中の特定色（例えば C, M, Y, K）についての明度、彩度および色相が適切なものとなるように設定され、これにより、色補正後の画像に含まれる特定色については明度、彩度、色相を適切なものとすることができる。

#### 【0005】

##### 【発明が解決しようとする課題】

一方、デジタルカメラにより取得された画像データをプリントとして出力する場合にも色補正を行うが、上記印刷を行うシステムと同様に特定色についての明度、彩度および色相を適切に修正することが望まれている。

#### 【0006】

本発明は上記事情に鑑みなされたものであり、デジタルカメラにおいて得られた画像データをプリントとして出力するに際し、適切に色補正を行うことができる色補正方法および装置並びに色補正方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体を提供することを目的とするものである。

#### 【0007】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明による色補正方法は、デジタルカメラにより取得した画像データに対して色を補正する処理を施して処理済み画像データを得る色補正方法において、

あらかじめ定められた複数の特定色についての明度、彩度、色相の変更度を設定し、

前記各特定色の中心色と前記画像データにより表される画像を構成する色との均等色差空間における距離に基づいて、前記各特定色についての明度、彩度、色相の変更度を重み付け加算して明度、彩度、色相についての補正值を得、

該明度、彩度、色相の補正值に基づいて前記画像データにより表される画像の明度、彩度、色相を補正して前記処理済み画像データを得ることを特徴とするものである。

#### 【0008】

「均等色差空間」とは、例えば $L^*a^*b^*$ 色空間あるいは $L^*u^*v^*$ 色空間のように、色空間内の等距離が知覚的に等しい差となる、彩度や色相を制御しやすい色空間である。

#### 【0009】

ここで、本発明における色補正とは、画像データに対して直接色補正を施すもののみならず、画像データと処理済み画像データとの対応関係を表す3次元ルックアップテーブルを作成し、この3次元ルックアップテーブルに基づいて画像データを変換することをも含むものである。

#### 【0010】

なお、本発明による色補正方法においては、前記特定色に肌色を含めることが好ましく、この場合、明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類された肌色を前記特定色に含めることが好ましい。

#### 【0011】

また、本発明による色補正方法においては、前記画像データにより表される画像を表示手段に表示し、

該表示手段に表示された画像上に所望とする位置の指定を受け付け、

該画像上に指定された所望とする位置の色を前記特定色に含めることが好ましい。

#### 【0012】

本発明による色補正装置は、デジタルカメラにより取得した画像データに対し

て色を補正する処理を施して処理済み画像データを得る色補正装置において、

あらかじめ定められた複数の特定色についての明度、彩度、色相の変更度を設定する変更度設定手段と、

前記各特定色の中心色と前記画像データにより表される画像を構成する色との均等色差空間における距離に基づいて、前記各特定色についての明度、彩度、色相の変更度を重み付け加算して明度、彩度、色相についての補正值を得る重み付け加算手段と、

該明度、彩度、色相の補正值に基づいて前記画像データにより表される画像の明度、彩度、色相を補正して前記処理済み画像データを得る補正手段とを備えたことを特徴とするものである。

【 0 0 1 3 】

なお、本発明による色補正装置においては、前記特定色に肌色を含めることが好ましく、この場合、明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類された肌色を前記特定色に含めることが好ましい。

【 0 0 1 4 】

また、本発明による色補正装置においては、前記画像データにより表される画像を表示する表示手段と、

該表示手段に表示された画像上に所望とする位置を指定する指定手段とを備え

、  
該画像上に指定された所望とする位置の色を前記特定色に含めることが好ましい。

【 0 0 1 5 】

なお、本発明による色補正方法をコンピュータに実行させるためのプログラムとして、コンピュータ読取り可能な記録媒体に記録して提供してもよい。

【 0 0 1 6 】

【発明の効果】

本発明によれば、あらかじめ定められた複数の特定色について、その明度、彩度、色相の変更度が設定され、特定色の中心色と画像データにより表される画像を構成する色との均等色差空間における距離に基づいて、各特定色についての明



度、彩度、色相の変更度が重み付け加算されて明度、彩度、色相の補正値が得られ、この明度、彩度、色相の補正値を用いて画像データにより表される画像の明度、彩度、色相が補正される。これにより、画像データにより表される画像の特定色の明度、彩度、色相が適切に補正された高画質の画像を再現可能な処理済み画像データを得ることができる。

## 【 0 0 1 7 】

また、特定色に肌色を含めれば、肌色を適切に補正することができ、人物を含む画像を高画質なものとすることができる。

## 【 0 0 1 8 】

一方、肌色については、撮影時における光源の位置や光源の種類などに応じて、1つの画像中に異なる明度、彩度および／または色相の肌色が含まれる場合がある。このような場合は、1つの肌色を特定色としてその明度、彩度、色相の補正値を求めたのでは、全ての肌色が一律の明度、彩度および／または色相となり、却って不自然な印象を与える画像となってしまう。したがって、肌色をその明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類し、分類された各肌色を特定色に含めることにより、肌色の明度、彩度および／または色相に応じて適切に肌色を補正することができ、より自然な印象となる画像を得ることができる。

## 【 0 0 1 9 】

また、画像データにより表される画像を表示手段に表示し、画像上に指定された所望とする位置の色を特定色を含めれば、画像上の所望とする色に対してもその明度、彩度、色相を補正することができ、これにより所望とする色についても適切な色を有する画像を得ることができる。

## 【 0 0 2 0 】

## 【発明の実施の形態】

以下図面を参照して本発明の実施形態について説明する。

## 【 0 0 2 1 】

図1は本発明の実施形態による色補正装置を適用した画像出力装置の構成を示す概略ブロック図である。図1に示すように、本実施形態による画像出力装置1は、デジタルカメラにより被写体を撮影することにより取得された画像データS

0を記憶したメモ리카ード2から色データR0, G0, B0からなる画像データS0を読み出す読出手段3と、画像データS0を縮小してインデックス画像を表すインデックス画像データS11を作成するインデックス画像作成手段4と、画像データS0を解析して後述する階調変換テーブルT0を設定するのに必要な階調の設定情報H0を生成する設定情報生成手段5と、画像データS0をプリント出力する際に画像データS0に対して階調変換処理および色補正処理を施すための3DLUTを作成するとともに、インデックス画像データS11に対して階調変換処理を施す3DLUT作成手段6と、階調変換処理が施されたインデックス画像データS11'をインデックス画像として表示するモニタ7と、3DLUT作成手段6に種々の入力を行う入力手段8と、濃度を変更するDCMYキー9と、3DLUT作成手段6において作成された3DLUTを用いて画像データS0を変換して変換画像データS12を得る処理手段10と、画像データS0の画素数がプリントの画素数よりも多い場合に画像データS0を縮小して縮小画像データS0'を得る縮小手段11と、画像データS0の画素数がプリントの画素数よりも少ない場合に変換画像データS12を拡大して拡大画像データS12'を得る拡大手段12と、変換画像データS12または拡大画像データS12'に対してシャープネス処理を施して処理済み画像データS13を得るシャープネス処理手段13と、処理済み画像データS13をプリント出力してプリントPを得るプリンタ14とを備える。

#### 【0022】

読出手段3は、メモ리카ード2から画像データS0を読み出すカードリーダ等からなる。また、メモ리카ード2から読み出した画像データは通常圧縮されているため、これを解凍して画像データS0とするものである。また、画像データS0には撮影を行ったデジタルカメラの種別を表す情報（以下カメラ種情報とする）がタグ情報として付与されているため、このカメラ種情報も同時に読み出される。ここで、カメラ種情報をタグ情報として記録する規格として例えばExifファイルの非圧縮ファイルとして採用されている「Baseline TIFF Rev.6.0RGB Full Color Image」が挙げられる。

#### 【0023】

インデックス画像作成手段4は、画像データS0を間引くなどして縮小してインデックス画像データS11を作成する。

## 【0024】

設定情報生成手段5は以下のようにして設定情報H0を生成する。通常デジタルカメラにおいては、画像データS0をモニタに再生することを前提としてオート露出制御処理(AE処理)およびオートホワイトバランス調整処理(AWB処理)が施されてなるものである。しかしながら、画像データS0をプリンタにおいて再生する場合には、デジタルカメラにおいて行われたAE処理およびAWB処理(以下AE/AWB処理とする)だけでは不十分であるため、プリントに適したAE/AWB処理を行う必要がある。設定情報生成手段5は、画像データS0を構成するRGB色信号毎に、プリントに最適なAE/AWB処理を行うために必要な補正量を推定し、この補正量を設定情報H0に含めるものである。このため、例えば特開平11-220619号に記載されたように、画像データS0を構成するRGB各色信号毎に平均値を求め、この平均値がプリントに適した目標値となるように修正値を求め、この修正値を補正量として設定情報H0に含めて出力する。なお、この補正量は、露光量およびホワイトバランスの双方の補正を行うものとなっている。

## 【0025】

また、設定情報生成手段5においては、後述するように3DLUT作成手段6において3DLUTを作成する際に、階調のハイライトおよびシャドーを非線形に修正するための修正量が求められ、この修正量も設定情報H0に含められる。ここで、プリンタは濃度の再現域が狭く、画像のハイライト部に飛びが、シャドー部に潰れが生じやすい状態にある。このため、設定情報生成手段5は、例えば特開平11-331596号に記載された方法により、AE処理あるいはAWB処理によりプリントの濃度が上がるような場合には、ハイライト側の階調を硬調化させるとともにシャドー側の階調を軟調化させ、逆にプリントの濃度が下がるような場合には、ハイライト側の濃度を軟調化させるとともにシャドー側の階調を硬調化させるように修正量を求め、これを設定情報H0に含める。

## 【0026】

さらに設定情報生成手段5においては、画像データS0のタグ情報が読み出され、タグ情報のカメラ種情報が設定情報H0に含められる。なお、タグ情報にストロボ情報が含まれている場合は、これも設定情報H0に含められる。

#### 【0027】

モニタ7にはインデックス画像データS11'により表されるインデックス画像が表示される。また、後述する階調曲線の修正時には、インデックス画像とともに階調曲線も表示される。なお、本実施形態においては6枚のインデックス画像が同時に表示されるものとする。

#### 【0028】

入力手段8は、3DLUT作成手段6に対して種々の入力をするキーボード、マウスなどからなるものである。ここで、入力手段8からは、3DLUT作成時に基準となる階調（以下基準階調とする）の種類が入力される。なお、基準階調とは、プリンタ14においてプリントを行う際に、適切な階調を有するプリントPが得られるように画像データに対して階調変換処理を行う階調を表すものである。ここで基準階調としては、例えば標準的な階調、曇天用の階調、逆光用の階調、および近接ストロボシーン用の階調が選択可能とされており、入力手段8から選択された基準階調を入力することにより、選択された基準階調を表す階調曲線が3DLUT作成手段6において設定される。また、所望とする階調が得られるように階調曲線を修正したい場合があるが、その場合は階調曲線をモニタ7に表示して、入力手段8を用いて階調曲線を修正することができる。

#### 【0029】

DCMYキー9は、画像全体の濃度DおよびC（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）の各色の濃度を補正するための4つのキーからなり、キーを押下した回数に応じて3DLUT作成手段6において画像全体および各色の濃度の変更される。なお、入力手段8から入力された階調曲線の修正およびDCMYキー9から入力された濃度の変更は、リアルタイムでモニタ7に表示されたインデックス画像に反映される。

#### 【0030】

3DLUT作成手段6は以下のようにして3DLUTを作成する。図2は3D

LUT作成手段6の構成を示す概略ブロック図である。なお、画像データS0がRGB各色8ビットのデータである場合、全てのデータを変換する3DLUTを作成しようとする $256^3$ のデータが必要となり、3DLUTの作成に長時間を要するものとなる。したがって、本実施形態においては、各色データR0, G0, B0のビット数を低減して0, 7, 15, …247, 255の各色33のデータからなる $33^3$ の3DLUTを作成するものとする。

## 【0031】

図2に示すように、3DLUT作成手段6は、ITU-R BT. 709 (REC. 709)に準拠した画像データS0 (ビット数が低減されたもの) から、下記の式(1)～(3)に基づいて真数の色データR0', G0', B0' を求め、これを対数変換して画像データS1を得る対数変換手段21と、対数変換された画像データS1に対して階調を変換する処理を施して画像データS2を得る階調変換手段22と、階調変換手段22における階調変換に用いられる階調変換テーブルT0を設定する階調設定手段23と、複数の階調曲線を記憶したメモリ24と、画像データS2を逆対数変換して色データR3, G3, B3からなる画像データS3を得る逆対数変換手段25と、画像データS3を構成する色データR3, G3, B3を明度L\*, 彩度C\*および色相HAを表すデータL3, C3, H3に変換するLCH変換手段26と、データL3, C3, H3に対して色を補正する処理を施して色補正データL4, C4, H4を得る色補正手段27と、色補正データL4, C4, H4をモニタ用の色空間であるsRGB色空間に変換して色データR4, G4, B4からなる色補正画像データS4を得るsRGB変換手段28と、色補正画像データS4をプリンタ用の色空間に変換してプリンタ用画像データS5を得るプリンタ変換手段29と、プリンタ用画像データS5と画像データS0とに基づいて3DLUTを作成するLUT作成手段30とを備える。なお、色補正手段27には複数の色補正メニューを記憶したメモリ31が接続されている。

## 【0032】

$$P_r = R_0 / 255$$

$$P_g = G_0 / 255 \quad (1)$$

$$P b = B 0 / 2 5 5$$

$$\begin{aligned} R 0' &= ((Pr+0.099)/1.099)^{2.222} \\ G 0' &= ((Pg+0.099)/1.099)^{2.222} \quad (Pr, Pg, Pb \geq 0.081) \quad (2) \\ B 0' &= ((Pb+0.099)/1.099)^{2.222} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} R 0' &= P r / 4.5 \\ G 0' &= P g / 4.5 \quad (Pr, Pg, Pb < 0.081) \quad (3) \\ B 0' &= P b / 4.5 \end{aligned}$$

メモリ 2 4 には、標準的な階調曲線、曇天用の階調曲線、逆光用の階調曲線、および近接ストロボシーン用の階調曲線からなる基準階調曲線、およびカメラ種別に応じた複数の階調曲線が記憶されている。

#### 【 0 0 3 3 】

階調設定手段 2 3 においては下記のようにして画像データ S 1 を階調変換するための階調変換テーブル T 0 が設定される。図 3 は階調変換テーブル T 0 の設定を説明するための図であり、この階調変換テーブル T 0 は、画像データ S 1 を構成する色データ R 1, G 1, B 1 を、第 1 象限から第 4 象限にかけて階調変換して画像データ S 2 を構成する色データ R 2, G 2, B 2 を得るものである。なお、階調設定手段 2 3 においては、R G B の各色毎に階調変換テーブル T 0 が設定される。まず、階調設定手段 2 3 には設定情報 H 0 が入力され、この設定情報 H 0 のうちカメラ種情報に基づいて、そのカメラ種情報に応じた階調曲線がメモリ 2 4 から読み出される。一方、基準階調曲線としてデフォルトの標準的な階調曲線がメモリ 2 4 から読み出されるが、入力手段 8 から曇天用の階調曲線を読み出す旨が入力されている場合は、曇天用の階調曲線が読み出され、逆光用の階調曲線を読み出す旨が入力されている場合は、逆光用の階調曲線が読み出され、近接ストロボ用の階調曲線を読み出す旨が入力されている場合には、近接ストロボ用の階調曲線が読み出される。

#### 【 0 0 3 4 】

カメラ種別の階調曲線 C 1 は図 3 に示すように第 1 象限に設定される。ここで

、デジタルカメラにおいては、デジタルカメラの製造メーカーや機種などのカメラの種別に応じて、再生画像の画質が異なるものである。したがって、この階調曲線C1は、カメラ種別に拘わらず一定品質の画像を得るために、個々のカメラの階調特性を吸収するようにカメラ種別に応じて作成されてなるものである。なお、この階調曲線C1により色データR1, G1, B1を変換すると、カメラ内の階調特性を補償した対数露光量を表すデータが得られることとなる。

## 【0035】

第2象限には露光量を補正する直線C2が設定される。この露光量を補正する直線C2は基本的には原点を通る直線であるが、設定情報H0に含まれる露光量およびホワイトバランスを補正するための補正量に基づいてこの直線C2を矢印A方向に平行移動させることにより露光量が補正される。そしてこの直線C2により、プリントに適したAE/AWB処理が施され、実被写体の反射濃度を表すデータが得られることとなる。

## 【0036】

第3象限には、基準階調曲線が設定される。なお、ここでは標準の階調曲線C3が設定されたものとする。この標準の階調曲線C3はS字状の曲線となっており、中間部は $\gamma = 1.6$ に相当するものとなっている。ここで、本実施形態においては階調曲線C3による変換を $\gamma$ 変換と称する。そしてこの階調曲線C3によりプリントに適した濃度データを得ることができる。

## 【0037】

第4象限には、画像のハイライト部およびシャドー部を非線形に補正する階調曲線C4が設定される。この階調曲線C4の補正量は、設定情報H0に含まれるハイライト部およびシャドー部の修正量に応じて定められる。そしてこの階調曲線C4により画像データS2を構成する色データR2, G2, B2を得ることができる。

## 【0038】

なお、この階調変換テーブルT0は入力手段8および/またはDCMYキー9の入力に応じて変更される。ここで、DCMYキー9の押下によって、モニタ7に表示されるインデックス画像のC, M, Yがシフトするが、ここではC, M,

Yのシフト量をR, G, B濃度のシフト量に変換して階調変換テーブルT0を変更するものである。すなわち、DCMYキー9の押下の回数に応じたR, G, B濃度のシフト量が予め設定されており、DCMYキー9の押下の回数に応じてR, G, Bの濃度を変更される。具体的には、第2象限の直線C2をDCMYキー9の押下回数に応じて矢印A方向に平行移動させることにより、R, G, Bの濃度を変更される。さらに、入力手段8からの入力によっては、第1象限の階調曲線C1あるいは第3象限の階調曲線C3の $\gamma$ の値が変更される。この場合、インデックス画像とともに各色毎の階調曲線C1, C3をモニタ7に表示し、インデックス画像を観察しながらユーザが所望とする階調となるように入力手段8を用いて階調曲線C1, C3を変更すればよい。そして、このように階調曲線C1、直線C2および／または階調曲線C3を変更することにより、階調変換テーブルT0が変更される。

## 【0039】

階調変換手段22は、階調設定手段23において設定された階調変換テーブルT0により画像データS1を変換して画像データS2を得る。

## 【0040】

なお、対数変換手段21、階調変換手段22、および逆対数変換手段25ではRGB色空間にて全ての処理が行われるものである。

## 【0041】

LCH変換手段26は画像データS3をRGB色空間から $L^*a^*b^*$ 色空間に変換するとともに、明度 $L^*$ 、彩度（クロマ値） $C^*$ および色相角HAを表すデータL3, C3, H3を得るものである。以下、この変換について説明する。デジタルカメラにおいて取得される画像データS0は、ITU-R BT. 709 (REC. 709) に準拠しているため、下記の式(4)に基づいて画像データS3を構成する色データR3, G3, B3がCIE1931三刺激値X, Y, Zに変換される。

## 【0042】

$$P_r = R3 / 255$$

$$P_g = G3 / 255 \quad (1)$$



$$P b = B 3 / 2 5 5$$

$$\begin{aligned} R 3' &= (Pr + 0.099) / 1.099^{2.222} \\ G 3' &= (Pg + 0.099) / 1.099^{2.222} \\ B 3' &= (Pb + 0.099) / 1.099^{2.222} \end{aligned} \quad (Pr, Pg, Pb \geq 0.081) \quad (2)$$

$$\begin{aligned} R 3' &= P r / 4.5 \\ G 3' &= P g / 4.5 \\ B 3' &= P b / 4.5 \end{aligned} \quad (Pr, Pg, Pb < 0.081) \quad (3)$$

$$\begin{aligned} X & & R 3 \\ Y &= | A | \cdot & G 3 \\ Z & & B 3 \end{aligned} \quad (4)$$

ここで、マトリクス  $| A |$  は、色データ  $R 3$ 、 $G 3$ 、 $B 3$  を三刺激値  $X$ 、 $Y$ 、 $Z$  に変換するためのマトリクスであり、例えば以下のような値を用いることができる。

$$\begin{aligned} & [0 \ 0 \ 4 \ 3] \\ & \begin{matrix} & 0.4124 & 0.3576 & 0.1805 \\ | A | & = & 0.2126 & 0.7152 & 0.0722 \\ & 0.0193 & 0.1192 & 1.0571 \end{matrix} \end{aligned} \quad (5)$$

なお、マトリクス  $| A |$  に代えて、ルックアップテーブルにより三刺激値  $X$ 、 $Y$ 、 $Z$  を求めるようにしてもよい。

【 0 0 4 4 】

次に、三刺激値  $X$ 、 $Y$ 、 $Z$  から下記の式 (6) ~ (8) により  $C I E 1 9 7 6$   $L^*$  ( $= L 3$ )、クロマ値  $C^*$  ( $= C 3$ ) および色相角  $H A$  ( $= H 3$ ) を求める。

$$\begin{aligned} & [0 \ 0 \ 4 \ 5] \\ a^* &= 500 \{ f(X/X_n) - f(Y/Y_n) \} \\ b^* &= 200 \{ f(Y/Y_n) - f(Z/Z_n) \} \\ L^* &= 116 (Y/Y_n)^{1/3} - 16 \quad (Y/Y_n > 0.008856 \text{ のとき}) \end{aligned} \quad (6)$$

$$L^* = 903.25 (Y/Y_n) \quad (Y/Y_n \leq 0.008856 \text{ のとき})$$

ここで、

$$X/X_n, Y/Y_n, Z/Z_n > 0.008856 \text{ のとき}$$

$$f(a/a_n) = (a/a_n)^{1/3} \quad (a = X, Y, Z)$$

$$X/X_n, Y/Y_n, Z/Z_n \leq 0.008856 \text{ のとき}$$

$$f(a/a_n) = 7.787 (a/a_n) + 16/116$$

なお、 $X_n, Y_n, Z_n$ は白色に対する三刺激値であり、CIE-D65（色温度が6500Kの光源）に対応する三刺激値により代用することができる。

【0046】

$$C^* = (a^{*2} + b^{*2})^{1/2} \quad (7)$$

$$HA = \tan^{-1} (b^*/a^*) \quad (8)$$

色補正手段27は、R、G、B、C、M、Y、YellowGreen (YG)、BlueSky (BS)、ハイライト側の肌色SK (HL)、中間濃度の肌色SK (MD) およびシャドー側の肌色SK (SD) の11色についての明度、彩度および色相を補正する。具体的には、下記の式(9)～(11)に示すようにデータL3, C3, H3を補正して補正データL4, C4, H4を得る。

【0047】

【数1】

$$L4 = L3 - \Delta L$$

$$\Delta L = \sum LP_i \cdot W_i + \sum LP_j \cdot W_j + \Delta \ell \cdot W_j \quad (9)$$

$$C4 = C3 - \Delta C$$

$$\Delta C = \sum CP_i \cdot W_i + \sum CP_j \cdot W_j + \Delta c \cdot W_j \quad (10)$$

$$H4 = H3 - \Delta H$$

$$\Delta H = \sum HP_i \cdot W_i + \sum HP_j \cdot W_j + \Delta h \cdot W_j \quad (11)$$

但し、 $i : R, G, B, C, M, Y, SK, BS$

$j : SK (HL), SK (MD), SK (SD)$

$LP_i, LP_j$  : 明度変更度

$CP_i, CP_j$  : 彩度変更度

$HP_i, HP_j$  : 色相変更度

$W_i$ 、 $W_j$  : 強度関数

$\Delta l$  : 階調変更に伴う明度変更分

$\Delta c$  : 階調変更に伴う彩度変更分

$\Delta h$  : 階調変更に伴う色相変更分

図 4 は、色補正手段 2 7 の構成を示す概略ブロック図である。図 4 に示すように色補正手段 2 7 は、変更度設定手段 4 1 と、重み付け加算手段 4 2 と、補正手段 4 3 とを備える。

#### 【0048】

明度変更度  $LP_i$ 、 $LP_j$ 、彩度変更度  $CP_i$ 、 $CP_j$  および色相変更度  $HP_i$ 、 $HP_j$  は、メモリ 3 1 に記憶された色補正メニューに基づいて変更度設定手段 4 1 において設定される。図 5 は色補正メニューを示す図である。ここで、メモリ 3 1 には、全てのデータ  $L3$ 、 $C3$ 、 $H3$  に対して共通の色補正を行うための基準色補正メニューと、カメラ種別に応じた色補正を行うための機種色補正メニューとが記憶されている。そして、色補正手段 2 7 に設定情報  $H0$  が入力されると、この設定情報  $H0$  に含まれるカメラ種情報に基づいて、そのカメラ種別に応じた機種色補正メニューがメモリ 3 1 から読み出される。一方、基準色補正メニューとしてデフォルトの標準的な色補正メニューがメモリ 3 1 から読み出されるが、入力手段 8 から曇天用の色補正メニューを読み出す旨が入力されている場合は、曇天用の色補正メニューが読み出され、逆光用の色補正メニューが読み出され、近接ストロボ用の色補正メニューを読み出す旨が入力されている場合には近接ストロボ用の色補正メニューが読み出される。ここで、色補正メニューには、明度、彩度および色相をどの程度修正すべきかを表す数値が設定されており、色補正手段 2 7 の変更度設定手段 4 1 は、基準色補正メニューおよび機種色補正メニューにおいて設定された数値にしたがって、式 (9) ~ (11) における明度変更度  $LP_i$ 、 $LP_j$ 、彩度変更度  $CP_i$ 、 $CP_j$  および色相変更度  $HP_i$ 、 $HP_j$  を設定する。なお、各色における変更度は、基準色補正メニューと機種色補正メニューとの数値の和として得られる。

#### 【0049】

強度関数  $W_i$  は下記の式 (12) により定められる。

【0050】

$$W_i = F(d)$$

$$d = \sqrt{(L_i - L)^2 + (a_i - a)^2 + (b_i - b)^2}$$

(12)

ここで、 $L_i$ 、 $a_i$ 、 $b_i$ はR、G、B、C、M、Y、YG、BSの $L^*a^*b^*$ 色空間における中心色であり、R、G、B、C、M、Yについてはマクベスカラーチェッカー（登録商標；米国コールモージェン社マクベス部門（Macbeth A division kollmorgen）製）の各色の測色値、YGおよびBSについては画像データS0により表される画像の緑葉および空の部分の平均的な測色値とする。また、 $d$ は、中心色 $L_i$ 、 $a_i$ 、 $b_i$ とLCH変換手段26において得られる $L^*$ 、 $a^*$ 、 $b^*$ の値との $L^*a^*b^*$ 色空間における距離であり、 $F(d)$ は、例えば図6に示すように、距離 $d$ が所定値（ここでは30）までは一定の値を有し、所定値よりも距離 $d$ が大きくなると値が小さくなるような関数である。

【0051】

一方、強度関数 $W_j$ は肌色用の強度関数であり、画像データS0により表される画像の $L^*a^*b^*$ 色空間におけるハイライト側の肌色SK（HL）、中間濃度の肌色SK（MD）およびシャドー側の肌色SK（SD）の統計的な分布範囲を求め、その分布において図7に示すように、周辺部の値が小さく中心部の値が大きくなる（但し $0 \leq W_j \leq 1$ ）ように設定されている。

【0052】

重み付け加算手段42は、強度関数 $W_i$ 、 $W_j$ および距離 $d$ を用いて上記式（9）から（11）における $\Delta L$ 、 $\Delta C$ 、 $\Delta H$ を求める。そして、補正手段43においては、上記式（9）から（11）に示す演算が行われて補正データ $L_4$ 、 $C_4$ 、 $H_4$ が得られる。

【0053】

なお、図8に示すようにモニタ7に表示されたインデックス画像の1つにおいて、上述したR、G、B、C、M、Y、YG、BS、SK（HL）、SK（MD）、SK（SD）以外の任意の色を指定し、指定した色を中心色としてその色の変更度を設定して上記式（9）から（11）にその色の変更を反映させてもよい。

。この場合、図8の点A、Bが指定されたとすると、点A、Bを中心とした $5 \times 5$ の範囲の色が求められ、その色について図9に示すように色補正メニューが設定され、上記式(9)から(11)により補正データ $L_4$ 、 $C_4$ 、 $H_4$ が求められる。

## 【0054】

$\Delta l$ 、 $\Delta c$ 、 $\Delta h$ は、階調設定手段23の第4象限で設定される非線形な階調変換に伴う肌色の明度、彩度、色相の変化分であり、下記のようにして求められる。すなわち、階調変換前の色データ $R_1$ 、 $G_1$ 、 $B_1$ および階調変換後の色データ $R_2$ 、 $G_2$ 、 $B_2$ に対して、上記式(4)～(8)の処理および逆対数変換手段25における処理を施して、各画素毎に明度 $L^*$ 、クロマ値 $C^*$ および色相角 $H_A$ の変化量 $\Delta L^*$ 、 $\Delta C^*$ および $\Delta H_A$ を算出する。そして、下記の式(13)～(15)に示すように、変化量 $\Delta L^*$ 、 $\Delta C^*$ および $\Delta H_A$ と図6に示す肌色用の強度関数 $W_j$ とを乗算することにより、 $\Delta l$ 、 $\Delta c$ 、 $\Delta h$ を求めることができる。

## 【0055】

$$\Delta l = \Delta L^* \times W_j \quad (13)$$

$$\Delta c = \Delta C^* \times W_j \quad (14)$$

$$\Delta h = \Delta H_A \times W_j \quad (15)$$

sRGB変換手段28は、補正データ $L_4$ 、 $C_4$ 、 $H_4$ について、上記式(7)、(8)を逆に解くことにより、補正後の $a^*$ 、 $b^*$ を求め、この補正後の $a^*$ 、 $b^*$ および $L^*$ について、式(6)を逆に解くことにより補正後の三刺激値 $X_5$ 、 $Y_5$ 、 $Z_5$ を求める。そして、下記の式(16)により三刺激値 $X_5$ 、 $Y_5$ 、 $Z_5$ を色データ $R_4'$ 、 $G_4'$ 、 $B_4'$ に変換する。

## 【0056】

$$\begin{array}{l} R_4' \quad \quad \quad X_5 \\ G_4' = |A|^{-1} \cdot Y_5 \\ B_4' \quad \quad \quad Z_5 \end{array} \quad (16)$$

さらに、下記の式(17)により色データ $R_4$ 、 $G_4$ 、 $B_4$ を得、これをモニタ7表示用のsRGB色空間の色補正画像データ $S_4$ とする。

## 【 0 0 5 7 】

$$R_4 = 255 \times ((R_4' + 0.055) / 1.055)^{2.4}$$

$$G_4 = 255 \times ((G_4' + 0.055) / 1.055)^{2.4} \quad (0.03929 \leq R_4', G_4', B_4' \leq 1)$$

$$B_4 = 255 \times ((B_4' + 0.055) / 1.055)^{2.4}$$

$$R_4 = 255 \times R_4' / 12.92$$

$$G_4 = 255 \times G_4' / 12.92 \quad (0 \leq R_4', G_4', B_4' < 0.03929)$$

$$B_4 = 255 \times B_4' / 12.92 \quad (17)$$

プリンタ変換手段 29 は、sRGB 色空間の色補正画像データ S4 をプリント用の色空間に変換する 3DLUT により色補正画像データ S4 を変換してプリンタ用画像データ S5 を得る。

## 【 0 0 5 8 】

LUT 作成手段 30 は、画像データ S0 を構成する色データ R0, G0, B0 とプリント用画像データ S5 を構成する色データ R5, G5, B5 との対応関係を各色毎に求め、これを  $3 \times 3 \times 3$  の 3 次元のルックアップテーブル (3DLUT) とする。

## 【 0 0 5 9 】

なお、3DLUT 作成手段 6 にはインデックス画像データ S11 が入力されて階調変換処理が施されるが、インデックス画像データ S11 についてはビット数を低減することなく、階調変換手段 22 において階調変換テーブル T0 を用いた階調変換処理のみが施され、色補正手段 27 における色補正処理は施されることなく sRGB 色空間に変換されて、階調変換処理が施されたインデックス画像データ S11' として出力される。この際、インデックス画像データ S11 は 3DLUT の作成には用いられないため、階調設定手段 23 において DCMY キー 9 の押下あるいは階調曲線の変更による濃度シフトを反映させて逐次設定される階調変換テーブル T0 により、階調変換手段 22 において逐次階調変換がなされてインデックス画像データ S11' として出力される。これにより、階調が変更されたインデックス画像をリアルタイムでモニタ 7 に表示することができる。

## 【 0 0 6 0 】

図 1 に戻り、3DLUT 作成手段 6 において作成された 3DLUT は処理手段 10 に入力される。そして画像データ S0 が 3DLUT により変換されて変換画像データ S12 が得られる。この際、3DLUT は  $3 \times 3 \times 3$  のデータにより作成されているため、変換画像データ S12 を構成する色データは、例えば特開平 2 - 8 7 1 9 2 号に記載されたように、3DLUT を体積補間あるいは面積補間することにより求められる。

## 【0061】

ところで、画像データ S0 を取得したデジタルカメラの画素数は種々のものがあり、プリントに必要な画素数に満たないものあるいはプリントに必要な画素数以上の画素数を有するものがある。このため、画像データ S0 がプリントに必要な画素数以上の画素数を有する場合、処理手段 10 の前段において縮小手段 11 により画像データ S0 を縮小して縮小画像データ S0' を得、縮小画像データ S0' を 3DLUT により変換して変換画像データ S12 を得る。一方、画像データ S0 がプリントに必要な画素数に満たない場合、処理手段 10 の後段において処理手段 10 において得られた変換画像データ S12 を拡大手段 12 により拡大して拡大画像データ S12' を得る。

## 【0062】

シャープネス処理手段 13 は、例えば下記の式 (18) により、変換画像データ S12 または拡大画像データ S12' に対してシャープネス処理を施して処理済み画像データ S13 を得る。なお、式 (18) においては変換画像データ S12 にシャープネス処理を施している。

## 【0063】

$$S13 = S12 + \beta (S12 - S12_{us}) \quad (18)$$

但し、S12<sub>us</sub> : 変換画像データ S12 のボケ画像データ

$\beta$  : 強調度

なお、強調度  $\beta$  を縮小手段 11 による縮小率または拡大手段 12 による拡大率に応じて変更してもよい。

## 【0064】

次いで、本実施形態の動作について説明する。図 10 は本実施形態の動作を示

すフローチャートである。まず、デジタルカメラにより撮影を行うことにより得られた画像データ S 0 が記憶されたメモリカード 2 から読出手段 3 において画像データ S 0 が読み出される（ステップ S 1）。インデックス画像作成手段 4 においては、画像データ S 0 のインデックス画像を表すインデックス画像データ S 1 1 が作成され（ステップ S 2）、3 D L U T 作成手段 6 に入力される。一方、設定情報生成手段 5 においては設定情報 H 0 が生成され（ステップ S 3）、3 D L U T 作成手段 6 に入力される。

## 【 0 0 6 5 】

3 D L U T 作成手段 6 の階調設定手段 2 3 においては、設定情報 H 0 に基づいて画像データ S 0 を変換するための階調変換テーブル T 0 が設定され（ステップ S 4）、この階調変換テーブル T 0 に基づいて階調変換手段 2 2 において、まず、インデックス画像データ S 1 1 が階調変換されて（ステップ S 5）、色補正を行うことなくモニタ 7 にインデックス画像が表示される（ステップ S 6）。ユーザはこのインデックス画像を観察し、必要があれば入力手段 8 あるいは D C M Y キー 9 からの入力により（ステップ S 7）、インデックス画像の階調および／または濃度を修正する（ステップ S 8）。そしてステップ S 4 に戻り、修正された階調および／または濃度に基づいて階調変換テーブル T 0 を新たに設定し、新たに設定された階調変換テーブル T 0 によりインデックス画像データ S 1 1 を階調変換してモニタ 7 に表示するステップ S 4 からステップ S 7 の処理を繰り返す。修正がない場合、あるいは修正が完了した場合はステップ S 7 が否定され、画像データ S 0 に対して最終的に設定された階調変換テーブル T 0 により階調変換が施され（ステップ S 9）、さらに色補正が施される（ステップ S 1 0）。さらに、s R G B 色空間への変換およびプリント用色空間への変換がなされて（ステップ S 1 1）、プリント用画像データ S 5 が得られる。そして、L U T 作成手段 3 0 において画像データ S 0 とプリント用画像データ S 5 との対応関係が R G B の各色毎に求められて 3 D L U T が作成され（ステップ S 1 2）、処理を終了する。

## 【 0 0 6 6 】

そして、メモリカード 2 から読み出された画像データ S 0 は、この 3 D L U T



により処理手段10において変換され、必要であれば縮小手段11における縮小処理、拡大手段12における拡大処理が施され、さらにシャープネス処理手段13においてシャープネス処理が施され、プリンタ14においてプリントPとして出力される。

## 【0067】

このように、本実施形態においては、あらかじめ定められた複数の色R、G、B、C、M、Y、YG、BS、SK(HL)、SK(MD)、SK(SD)について、明度、彩度、色相の変更度を設定し、各色の中心色とデータL3、H3、C3とのLab空間における距離dを算出し、この距離dに基づいて各色についての明度、彩度、色相の変更度を重み付け加算して補正值 $\Delta L$ 、 $\Delta C$ 、 $\Delta H$ を得、この補正值 $\Delta L$ 、 $\Delta C$ 、 $\Delta H$ を用いて各色R、G、B、C、M、Y、YG、BS、SK(HL)、SK(MD)、SK(SD)を補正するようにしたため、画像データS0により表される画像の特定色の明度、彩度、色相を適切に補正することができ、その結果高画質の画像を再現可能な処理済み画像データS13を得ることができる。

## 【0068】

また、補正の対象となる色に肌色SKを含んでいるため、肌色を適切に補正することができ、人物を含む画像を高画質のものとすることができる。

## 【0069】

なお、上記実施形態においては、肌色については、ハイライト側の肌色SK(HL)、中間濃度の肌色SK(MD)およびシャドウ側の肌色SK(SD)のように明度に応じて段階的に分類し、各段階の肌色を補正するようにしているが、肌色の彩度あるいは色相に応じて段階的に分類し、各段階の彩度あるいは色相を有する肌色を補正するようにしてもよい。

## 【0070】

ここで、肌色については、撮影時における光源の位置あるいは光源の種類などに応じて、1つの画像中に異なる明度、彩度および／または色相の肌色が含まれる場合がある。このような場合は、肌色を補正の対象の色として補正を行ったのでは、全ての肌色が一律の明度、彩度および／または色相となり、却って不自然

な印象を与える画像となってしまう。したがって、肌色をその明度、彩度および／または色相に応じて複数段階に分類し、分類された各肌色を特定色に含めることにより、肌色の明度、彩度および／または色相に応じて適切に肌色を補正することができ、より自然な印象となる画像を得ることができる。

【 0 0 7 1 】

なお、上記実施形態においては、 $L^*a^*b^*$ 色空間において色補正を行っているが、 $L^*u^*v^*$ 色空間等の均等色差空間であればどのような色空間において色補正を行うようにしてもよい。

【 0 0 7 2 】

また、上記実施形態においては、本発明による色補正装置を 3DLUT の作成に用いているが、画像データに対してリアルタイムで色補正を施すようにしてもよい。また、本発明による色補正装置を画像出力装置に適用しているが、色補正装置を単体で用いてもよい。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施形態による色補正装置を備えた画像出力装置の構成を示す概略ブロック図

【図 2】

3DLUT 作成手段の構成を示す概略ブロック図

【図 3】

階調変換テーブルの設定を説明するための図

【図 4】

色補正手段の構成を示す概略ブロック図

【図 5】

色補正メニューを示す図

【図 6】

強度関数の例を示す図

【図 7】

肌色用の強度関数の例を示す図

【図 8】

モニタに表示されたインデックス画像の 1 つを示す図

【図 9】

追加の色補正メニューを示す図

【図 1 0】

本実施形態の動作を示すフローチャート

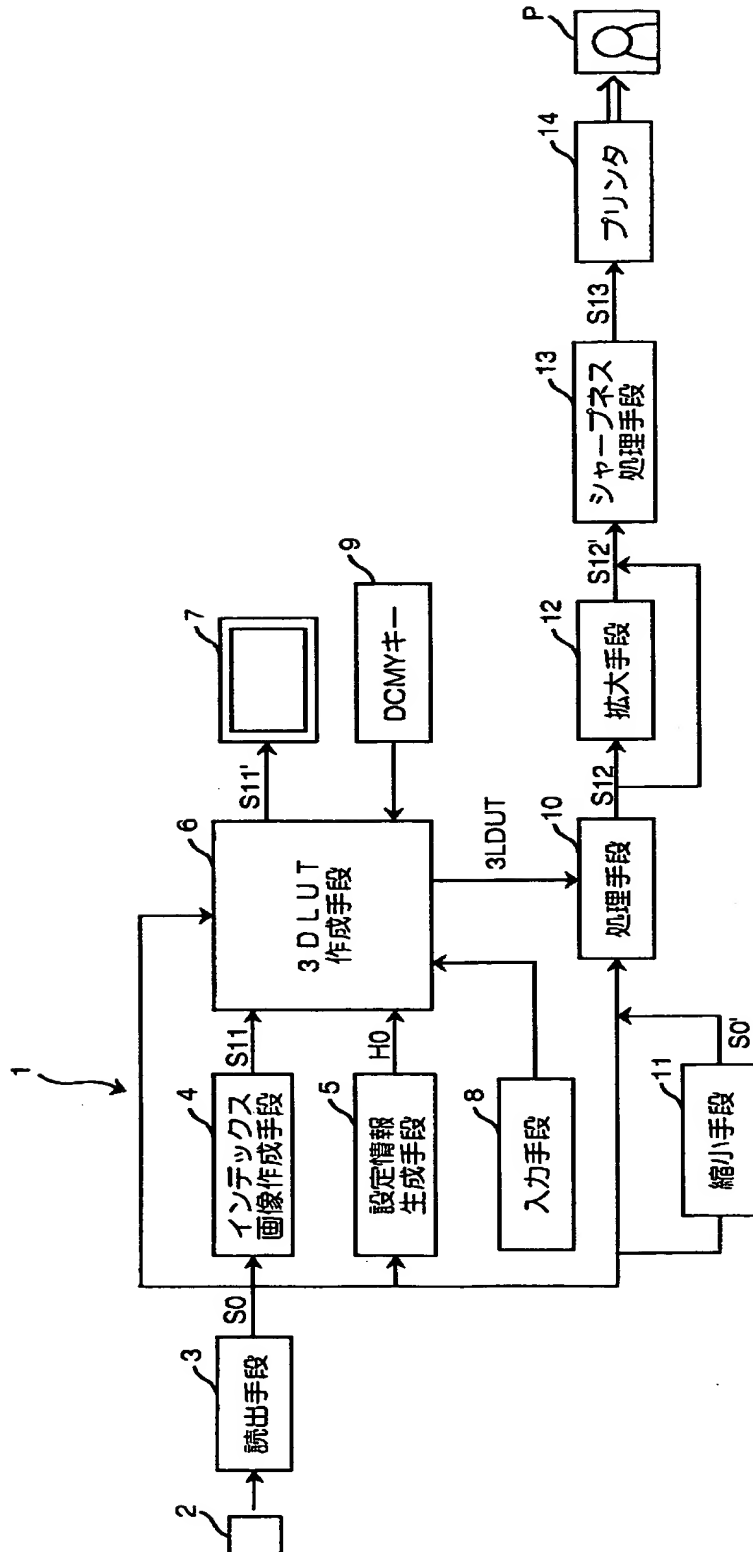
【符号の説明】

- 1 画像出力装置
- 2 メモリカード
- 3 読出手段
- 4 インデックス画像作成手段
- 5 設定情報生成手段
- 6 3 D L U T 作成手段
- 7 モニタ
- 8 入力手段
- 9 D C M Y キー
- 1 0 処理手段
- 1 1 縮小手段
- 1 2 拡大手段
- 1 3 シャープネス処理手段
- 1 4 プリンタ
- 2 1 対数変換手段
- 2 2 階調変換手段
- 2 3 階調設定手段
- 2 4, 3 1 メモリ
- 2 5 逆対数変換手段
- 2 6 L C H 変換手段
- 2 7 色補正手段
- 2 8 s R G B 変換手段

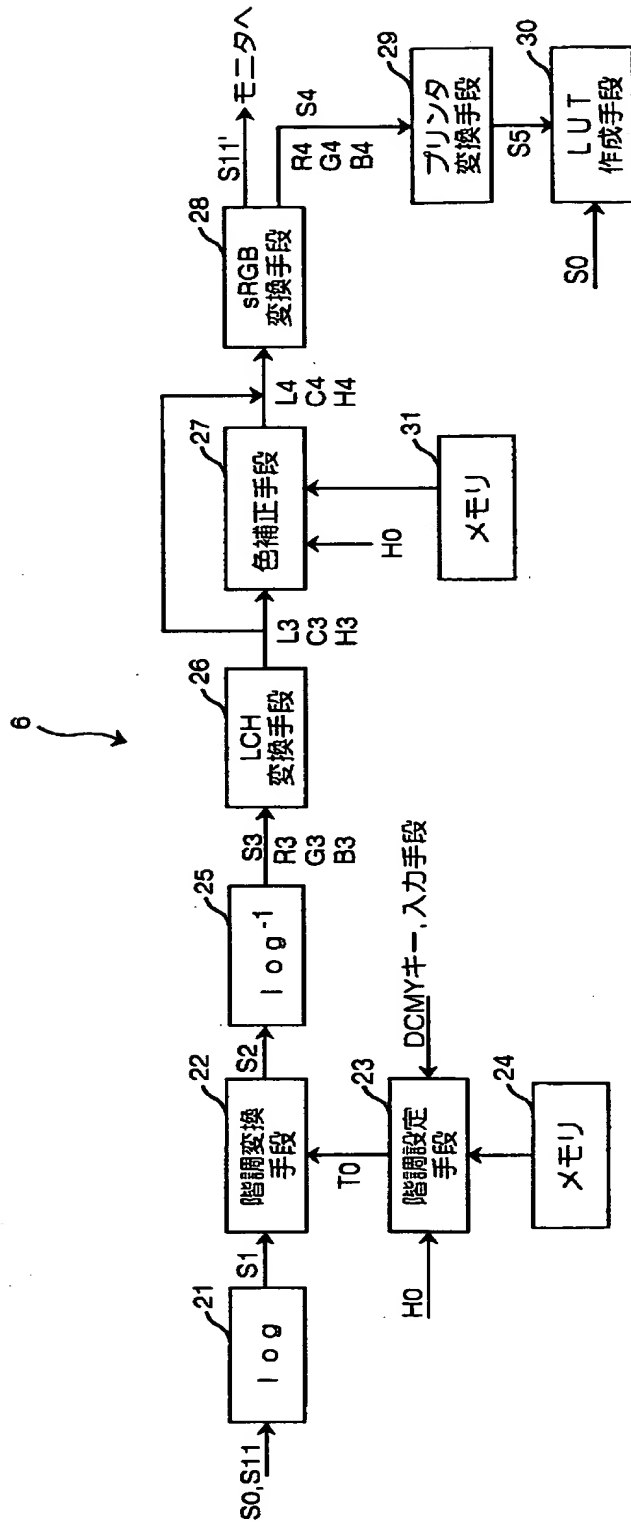
- 2 9     プリンタ変換手段
- 3 0     LUT生成手段
- 4 1     変更度設定手段
- 4 2     重み付け加算手段
- 4 3     補正手段

【書類名】 図面

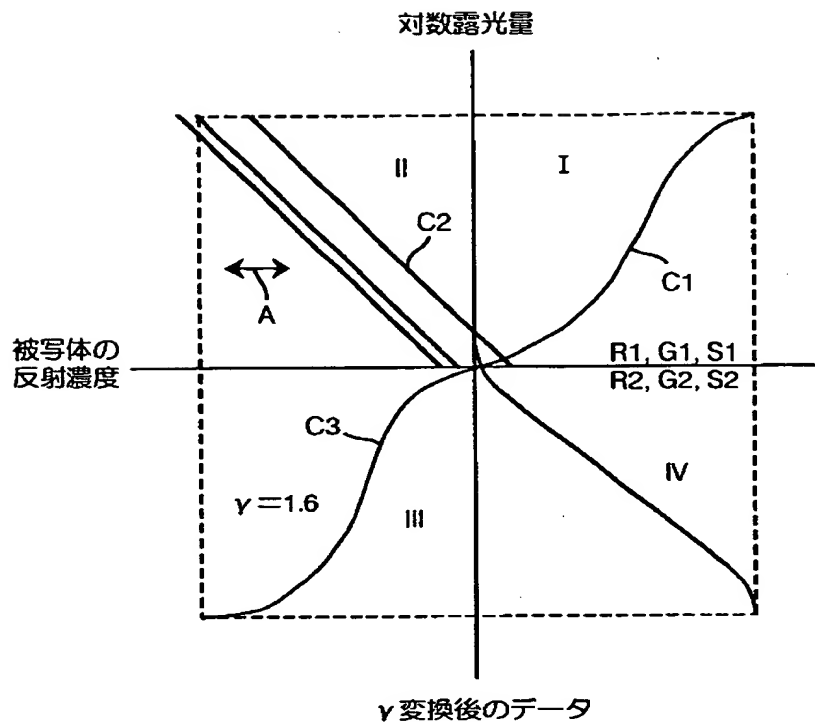
【図 1】



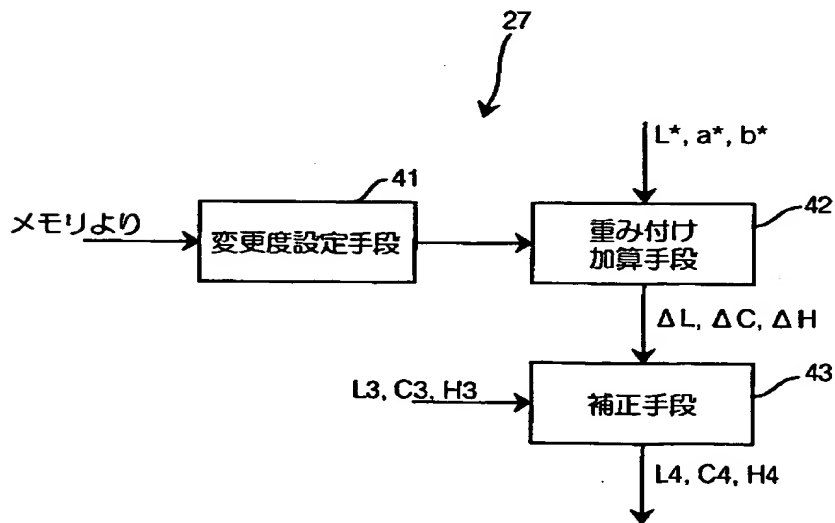
【図 2】



【図 3】



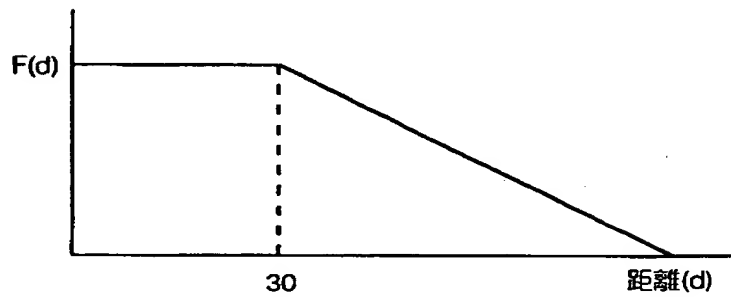
【図 4】



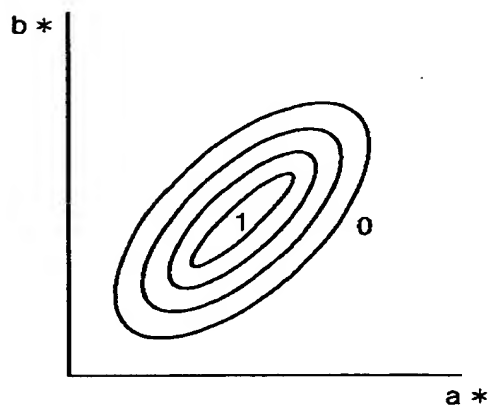
【図 5】

基準色補正メニュー				機種色補正メニュー			
	L	C	H		L	C	H
R	0	-5	-3	R	0	-2	-5
G	0	0	0	G	0	0	0
B	0	0	0	B	0	-3	0
C	0	0	0	C	0	0	0
M	0	0	0	M	0	0	0
Y	0	0	0	Y	0	3	0
YG	0	0	0	YG	0	0	0
BS	0	0	0	BS	0	0	10
SK(HL)	0	0	0	SK(HL)	0	0	0
SK(MD)	0	0	0	SK(MD)	0	0	0
SK(SD)	0	0	0	SK(SD)	0	0	0

【図 6】

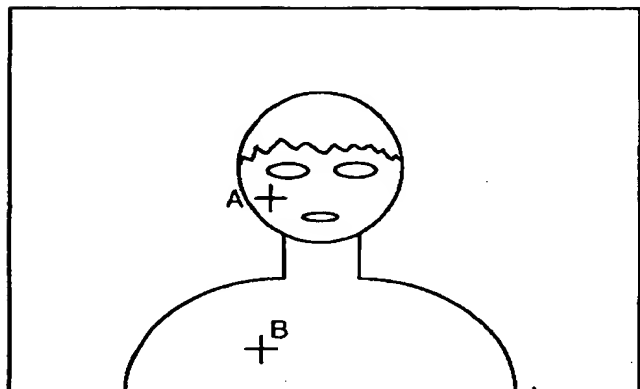


【図 7】





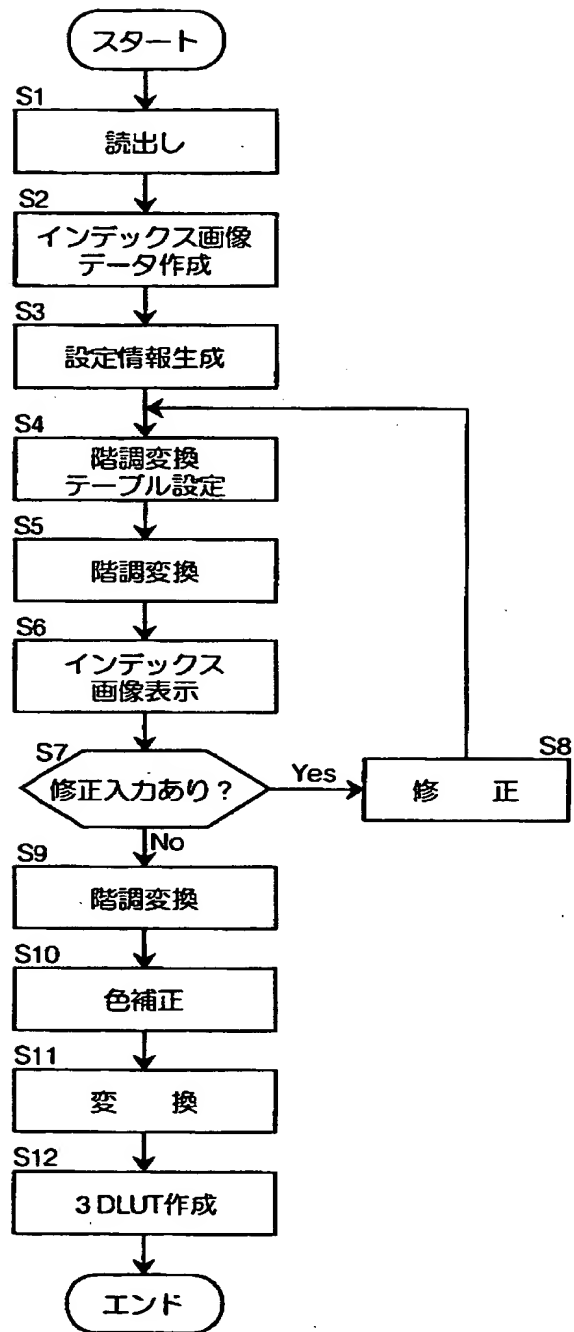
【图 8】



【图 9】

点 A	0	5	0
点 B	0	-5	0

【図 10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 デジタルカメラにおいて得られた画像データをプリント出力する際に、適切に色補正を行う。

【解決手段】 画像データ S 0 により表される画像中の特定色 R、G、B、C、M、Y、YG、BS、SK (HL)、SK (MD)、SK (SD) について、明度、彩度、色相の変更度を設定する。そして、L a b 色空間において、各特定色の中心色と画像データ S 0 により表される画像を構成する色との距離を算出し、この距離に基づいて各特定色についての明度、彩度、色相の変更度を重みづけ加算して明度、彩度、色相についての補正值を得る。そして、この補正值に基づいて画像データ S 0 により表される画像の明度、彩度、色相を補正して処理済み画像データを得る。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2000-130734
受付番号	50000548049
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成12年 5月 1日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年 4月28日
【特許出願人】	
【識別番号】	000005201
【住所又は居所】	神奈川県南足柄市中沼 210番地
【氏名又は名称】	富士写真フイルム株式会社
【代理人】	申請人
【識別番号】	100073184
【住所又は居所】	神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-20 B ENEX S-1 7階 柳田国際特許事務所
【氏名又は名称】	柳田 征史
【選任した代理人】	
【識別番号】	100090468
【住所又は居所】	神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-20 B ENEX S-1 7階 柳田国際特許事務所
【氏名又は名称】	佐久間 剛

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005201]

1. 変更年月日	1990年 8月14日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県南足柄市中沼210番地
氏 名	富士写真フイルム株式会社